

2	法定	自主
	○	

産業廃棄物処理計画書

令和 6年 6月 21日

神奈川県知事 殿

提出者

住 所

神奈川県小田原市寿町五丁目3番28号

氏 名

花王株式会社小田原事業場
事業場代表 宮崎 美孝

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号

0465-34-6111

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	花王株式会社 小田原事業場		自主管理事業登録番号	
			(1103)	
事業場の所在地	神奈川県小田原市寿町五丁目3番28号		TEL(連絡先):	0465-34-6111
計画期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年間)			
当該事業場に関する事項				
① 事業の種類	E16-化学工業		(具体的には)	化粧品・歯磨・その他の化粧用調整品製造業
② 事業の規模	製造業	製造品出荷額	78,280	百万円
	建設業	エリア内元請完成工事高		百万円
	医療機関	病床数		床
	その他の業種	売上高		百万円
	(上記項目に該当しない場合にはこちらに記載をしてください。)			
③ 従業員数	1037名			
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	1)汚泥→自己処理(一部乾燥)→委託処理(焼却・焼成→リサイクル) 2)廃油→一部自己処理(乾燥減容)→委託処理(焼却→リサイクル) 3)廃酸→委託処理(中和→リサイクル) 4)廃アルカリ→委託処理(中和→リサイクル) 5)廃プラ類→委託処理(破碎・焼却→リサイクル) 6)木くず→委託処理(破碎→リサイクル) 7)金属くず→委託処理(破碎・焼却→リサイクル) 8)ガラスくず→自己処理(破碎)→委託処理(焼却→リサイクル)			

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

トップマネジメント

↓
環境管理責任者↓
ISO14001事務局↓
各部門の部門責任者↓
環境推進委員↓
全従業員

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状

【前年度(令和5年度)実績】

産業廃棄物の種類数

6

種類

① 排出量

1,888.8

t

* 種類ごとの前年度排出量は、別紙のとおり。

(これまでに実施した取組)

- ・産業廃棄物として排出していた使用済プラスチックドラムを有価物として売却する契約を締結し、産業廃棄物の削減に成功した。
- ・化粧品の仕様等を確認し、不要な包装の見直しを実施

② 計画

【(令和6年度)目標】

産業廃棄物の種類数

6

種類

① 排出量

1,824.4

t

* 種類ごとの本年度排出目標量は、別紙のとおり。

(今後実施する予定の取組)

- ・廃棄物置場に計量器を設置し、部門毎の廃棄物の種類・重量を集計できるシステムの構築を検討。“廃棄物の見える化”を行うことで減量化すべきポイントを明確にする。
- ・汚れの少ないプラ製品について、ペレット化によるマテリアルリサイクルを準備

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状

(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

汚泥、廃油、廃プラ類、ガラスくず等廃棄物の種類毎に廃棄物置場の区画整理を実施

② 計画

(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

廃棄物量が増加傾向にあるため、廃棄物置場の再区画を検討している。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度(令和5年度)実績】		
	②+⑧ 自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0	t * 種類ごとの前年度自ら再生利用量は、別紙のとおり。
	(これまでに実施した取組)		
	該当なし		
② 計画	【(令和6年度)目標】		
	②+⑧ 自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0.0	t * 種類ごとの本年度自ら再生利用量は、別紙のとおり。
	(今後実施する予定の取組)		
	該当なし		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度(令和5年度)実績】		
	⑤ 自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0	t * 種類ごとの前年度自ら熱回収を行った量は、別紙のとおり。
	⑦ 自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	590.0	t * 種類ごとの前年度自ら中間処理により減量した量は、別紙のとおり。
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【(令和6年度)目標】		
	⑤ 自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0.0	t * 種類ごとの本年度自ら熱回収を行う量は、別紙のとおり。
	⑦ 自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	590.0	t * 種類ごとの本年度自ら中間処理により減量する量は、別紙のとおり。
	(今後実施する予定の取組)		
② 計画	・汚泥乾燥機の制御盤を更新した際に乾燥工程の見直しを実施 従前の乾燥工程と比較して効率化を図った。 結果:更新前180分要していた工程が150分まで短縮され、減容化に成功		
	・廃油の一部自己処理について、対象範囲の拡大を検討し、 廃油の外部搬出量をさらに削減していく		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度(令和5年度)実績】		
	③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0	t * 種類ごとの前年度自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量は、別紙のとおり。
	(これまでに実施した取組)		
	該当なし		
② 計画	【(令和6年度)目標】		
	③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0.0	t * 種類ごとの本年度自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う量は、別紙のとおり。
	(今後実施する予定の取組)		
	該当なし		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度(令和 5 年度)実績】			
	⑩ 全処理委託量	1,298.8	t	* 種類ごとの前年度処理委託量は、別紙のとおり。
	⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	1,023.6	t	
	⑫ 再生利用業者への処理委託量	1,298.8	t	
	⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0	t	
	⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0	t	
	(これまでに実施した取組)			
・定期的な契約内容の見直し。主要な品目についてはリスクヘッジとして複数社との契約体制を構築 ・新規契約する際は、社内ルールに基づき現地適正処理確認と審議を実施 ・再資源化にならない単純焼却と直接埋立について、全体排出量の1%未満にする”廃棄物ゼロ”を推進。24年3月より、単純焼却・直接埋立共に完全ゼロを達成。				

② 計画	【(令和 6 年度)目標】			* 種類ごとの本年度処理委託量は、別紙のとおり。
	⑩ 全処理委託量	1,234.4	t	
	⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	949.3	t	
	⑫ 再生利用業者への処理委託量	1,234.4	t	
	⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0	t	
	⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0	t	
	(今後実施する予定の取組)			
・単純焼却業者について、リスクヘッジ先の運用であるため、今後はサーマルリサイクル業者で複数社体制になる様に、新規業者との契約検討を進める。 ・汚れの少ないプラスチック類について、マテリアルリサイクル(ペレット化)できる業者を探索する。 ・廃油の一部について、再生できる業者や燃料化できる業者を探索。産業廃棄物としての廃油の外部排出量の削減を進める。				
※ 事務処理欄				

備考

- 1 この様式は、前年度(令和5年度)の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成し、提出してください。

また、前年度(令和5年度)の産業廃棄物の発生量が1,000トン未満の事業場にあつては、神奈川県・横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市が推進する廃棄物自主管理事業へ参加するにあたり、事業場ごとに1枚作成し、提出してください。
- 2 当該年度(令和6年度)の6月30日までに提出してください。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入してください。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類(中分類)の区分を記入してください。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入してください。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入してください。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入してください。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入してください。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付してください。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入してください。
- 7 第5面の※欄には、何も記入しないでください。

産業廃棄物処理計画書

2-2	法定 ○	自主
-----	---------	----

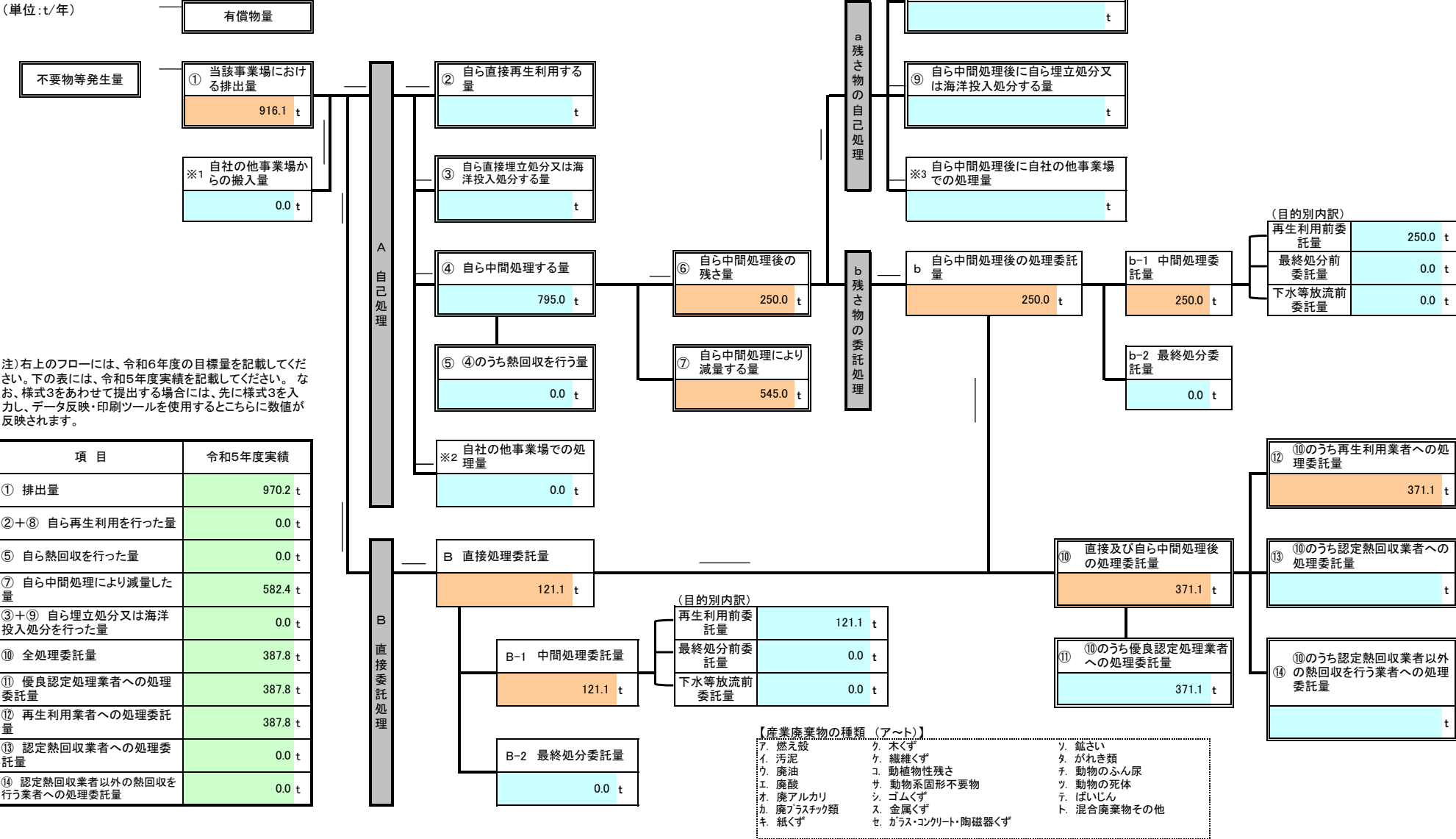
別紙処理フロー

令和6年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	イ. 汚泥
------------------	-------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位:t/年)



ソ. 鋳さい
 タ. がれき類
 チ. 動物のふん尿
 ツ. 動物の死体
 テ. ばいじん
 ト. 混合廃棄物その他

事業場名称 : 花王株式会社 小田原事業場

産業廃棄物処理計画書

2-2	法定 ○	自主
-----	---------	----

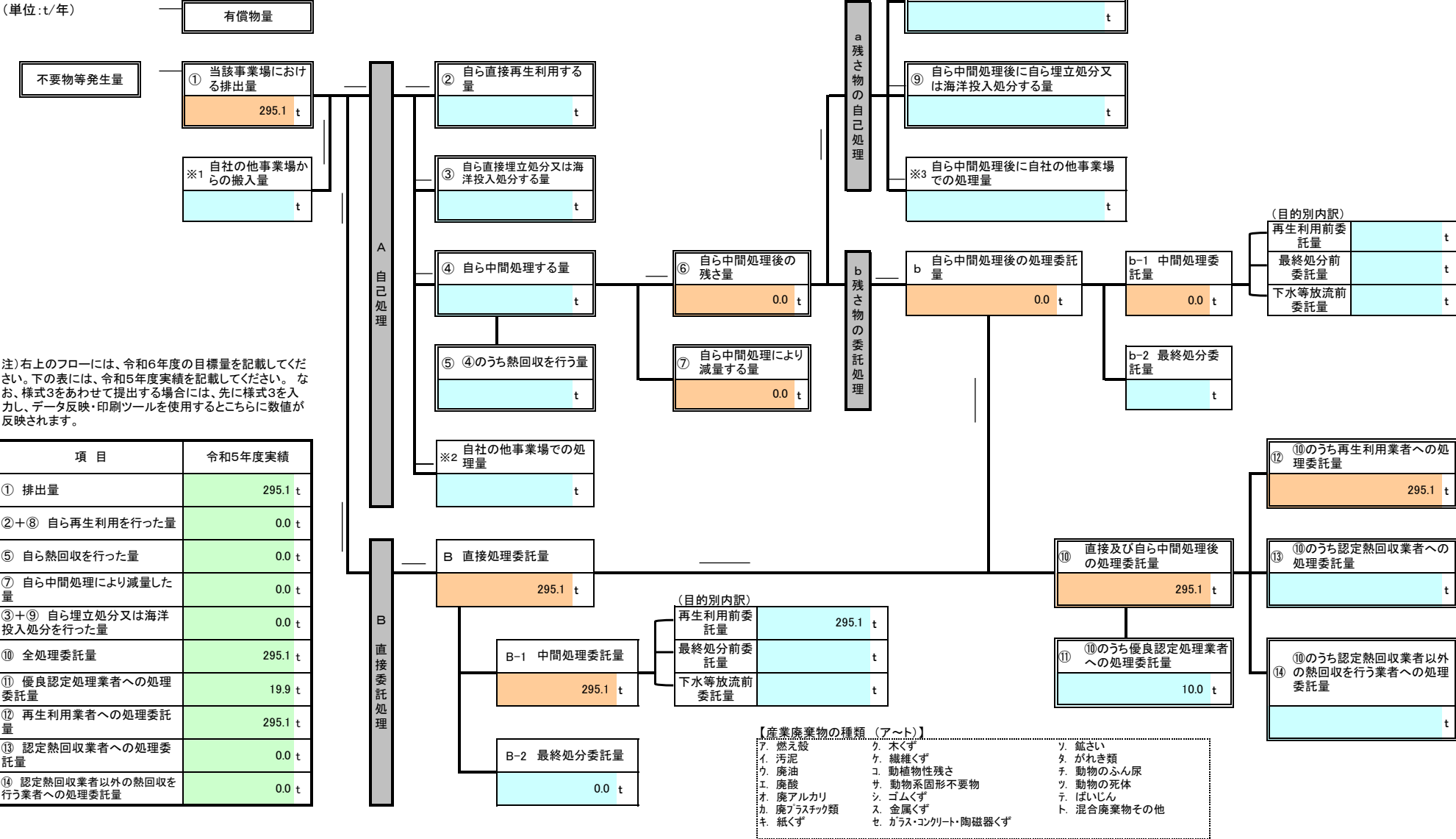
別紙処理フロー

令和6年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	カ. 廃プラスチック類
------------------	-------------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位:t/年)



別紙処理フロー

令和6年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	ク. 木くず
------------------	--------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位:t/年)

有償物量

不要物等発生量

① 当該事業場における排出量

0.4 t

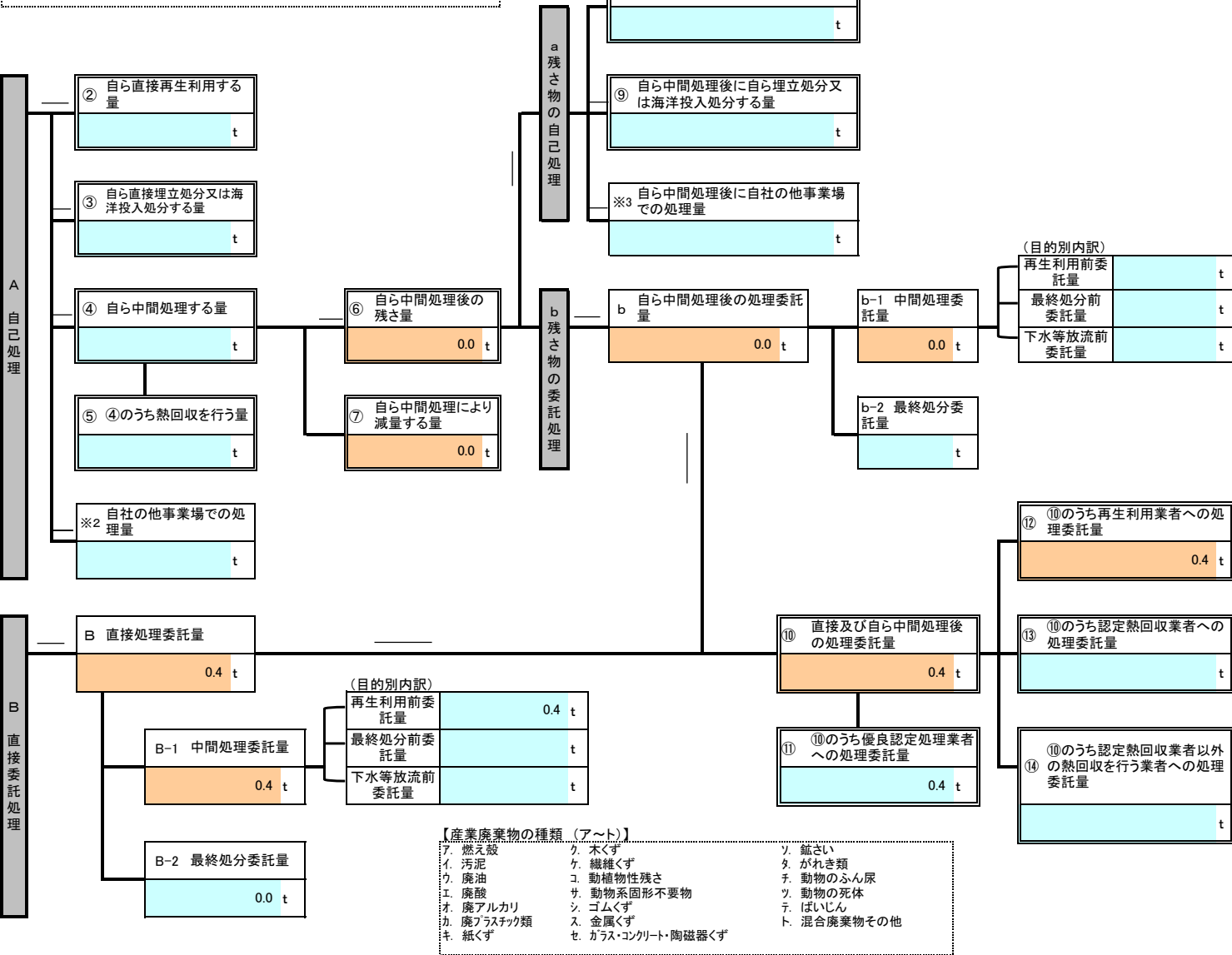
※1 自社の他事業場からの搬入量

t

注) 右上のフローには、令和6年度の目標量を記載してください。下の表には、令和5年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項目	令和5年度実績
① 排出量	0.5 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	0.5 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.5 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0.5 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

「木くず」には業種指定等があり、該当業種以外では一般廃棄物となり、報告対象外です。
【該当業種】木材又は木製品の製造業(家具製造業を含む)、パルプ製造業、輸入木材の卸売業及び物品賃貸業に係るもの、建設業(工作物の新築、改築、除去に伴って生じたもの)。
【全業種対象】貨物の流通のために使用したパレット(パレットへの貨物の積付けのために使用したこん包用の木材を含む。)



産業廃棄物処理計画書

2-2	法定 ○	自主
-----	---------	----

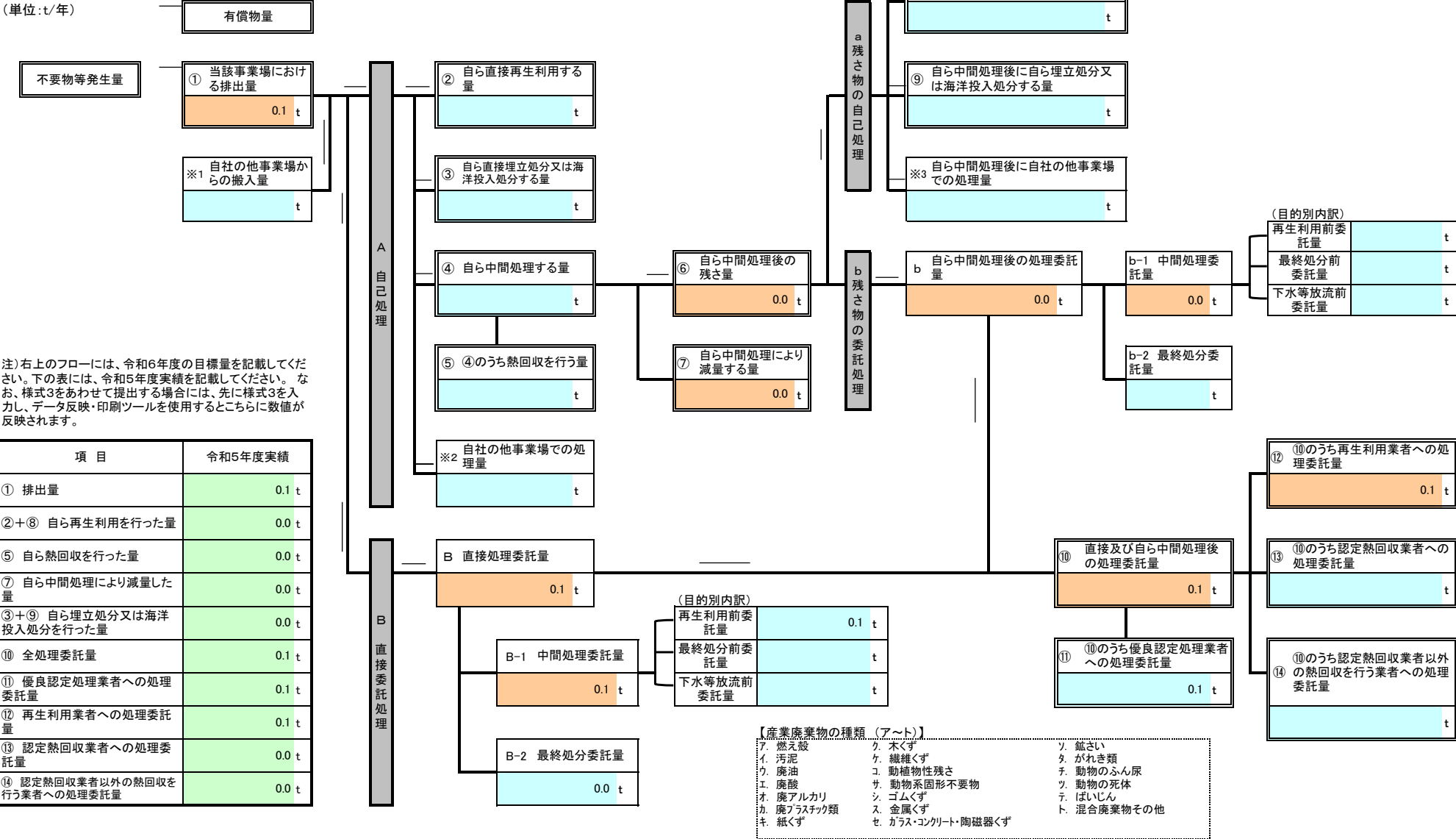
別紙処理フロー

令和6年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	ス、金属くず
------------------	--------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位:t/年)



産業廃棄物処理計画書

2-2	法定 ○	自主
-----	---------	----

別紙処理フロー

令和6年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず
------------------	---------------------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位:t/年)

